

租税教育実践レポート

くらしと税金について考える

登米市立北方小学校教諭 6学年 三浦 幸恵

実施年月日：令和2年6月30日 35名

1 実施計画・指導のねらい

学習前の実態調査から、税金という言葉は児童全員が聞いたことがあると回答した。また、多くの児童が買い物をするときに10%の消費税を納めていることや、税金の使い道として教科書を買ってもらっていることも知っていた。しかし、その他の税金の納め方や使われ方を知らない児童が多かった。そこで、自分たちの生活は税金と深くかかわっており、安心して安全な豊かなくらしを実現していくためには欠かせないものであることを理解させたいと考えた。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問 (○), こどもたちの反応 (●), 使用教材等 (□)	
1	・国民の義務の中には、税金を納める義務があることを知る。	○税金について知っていることはありますか。 ●消費税は買い物をするときに払う。 □使用教材名 教科書「新しい社会6 政治・国際編 東京書籍」	【指導のポイント】≪1時間目≫ なぜ納税の義務があるのか疑問を持たせ、租税教室へつなげるようにした。
2	「租税教室」 ・税金の意義や使われ方、税金の必要性について理解する。	○税金がなくなると私たちのくらしはどうなるでしょうか。 ●安心して安全な暮らしができなくなる。 □使用教材名 DVD「マリンとヤマト不思議な日曜日」 	【指導のポイント】≪2時間目≫ 登米法人会の方々を迎え、税金の大切さや必要性を教えもらい理解を深めることができた。
3	・東日本大震災の復旧に税金が使われていることを知る。	○税金によってどのような復旧作業が行われたのでしょうか。 ●仮設住宅建設、ライフラインの復旧、がれきの撤去や処理、道路や港湾の復旧などが行われた。 □使用教材名 教科書「新しい社会6 政治・国際編 東京書籍」	【指導のポイント】≪3時間目≫ 復旧作業の映像を見せながら、税金の大切さや必要性について再確認した。
4	・標語や絵はがき作りを通して、税金への関心や理解を深める。	○税金の大切さを標語や絵はがきで伝えるためには、どのような言葉や絵を描いたらよいでしょうか。 ●学校や道路など私たちが困らないで生活できるのは、税金のおかげだということを伝えたい。 □使用教材名 まんが「おじいさんの赤いつぼ」	【指導のポイント】≪4時間目≫ 今までの学習を活用して、学んだことを伝える作品づくりを行った。

3 実践の結果 (◎) と課題 (◆)

◎ 租税教室や社会科の授業を通して、税金が身近なものに使われており、自分たちのくらしを支えてくれている大切なものであるということを学び、理解を深めることができた。

◆ どのような種類の税を納めているか家族にインタビューさせるなどして、消費税以外にも様々な税を納めていることを実感させ、公共物等をより大切に利用しようとする気持ちも育てていく必要があると感じた。